

地震が発生したら

地震の規模によって順番が異なることもありますが、代表的な行動パターンを示します。

地震発生

グラツときたら…

- あわてて外に飛び出さないでください。
- 机の下などへ潜ってください。倒れてくる家具や落下物に注意してください。
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保してください。



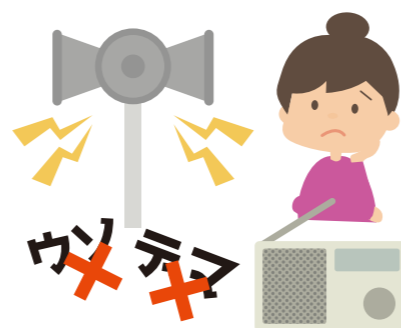
揺れがおさまったら…

- 火元を確認し、出火があれば、落ち着いて初期消火を行ってください。
- 家族が倒れた家具などの下敷きになっていないか安全を確認してください。
- ガラスの破片が散乱している場合もあるので、靴を履いて逃げる準備をしましょう。靴がなければ厚手のスリッパで代用してください。



デマに惑わされないように…

- 町の防災行政無線などで正しい情報を集めましょう。
- 電話を控えましょう。
- 避難する場合、車は使わないでください。



避難指示があったときは急いで避難しましょう。家が倒壊する恐れがあるとき、火が天井に燃え移ったときも、すぐに避難します。

余震に注意しながら…

- 隣近所に声を掛け、避難行動要支援者の安全確保や初期消火をしましょう。
- 漏電やガス漏れなどに注意し、出火防止に近所で協力しましょう。



地域の皆さんで協力しながら…

- 地震発生後の数日間は、水道、ガス、電気、電話などのライフラインをはじめ、食料の供給が止まることがあります。



震災時のNG行動

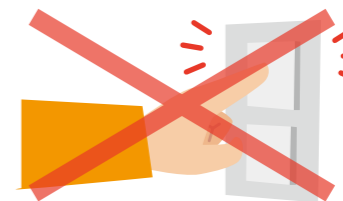
ガスに引火し爆発する危険があるので、火をつけない。



電話回線がパンクするので、震災直後の不要不急の電話の使用を控える。



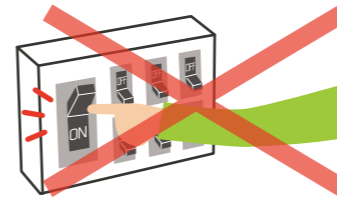
火災や爆発の危険があるので、電気のスイッチに触らない。



ケガをする危険があるので、救出活動はひとりではなく複数で行う。



火災の危険があるので、ブレーカーを上げて通電させない。



ケガをする危険があるので、部屋の中を裸足で歩かない。



閉じ込められる危険があるので、エレベーターは使わない。



緊急車両の運行の妨げになるので、避難に車は使わない。



地震にあったときの対処法

屋内にいるとき

エレベーター

- ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降りる。
- 停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求める。



地下街

- 耐震構造となっており、比較的安全と言われている。壁や大きな柱に身を寄せて揺れが収まるのを待つ。
- 火災が発生したらハンカチなどで鼻と口をおおい、壁づたいに体を低くして地上に避難する。



スーパー・ショッピングモール

- ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意する。
- 柱や壁際に身を寄せ、衣類や手荷物など身近なもので頭を守る。
- 店員の指示に従って行動する。



屋外にいるとき

住宅街

- ブロック塀や石壁、門柱などから離れる。
- 屋根瓦やガラスの破片などの落下物に注意。
- 垂れ下がった電線に近づかない。
- 建物や塀、電柱、自動販売機などから離れる。



繁華街

- ガラスの破片や看板などの落下物に注意。
- 手荷物などで頭を守りながら、広場などに逃げる。
- 建物や塀、電柱、自動販売機などから離れる。



バスや電車の中

- 急停車することがあるので、つり革や手すりなどにしっかりとつかまる。
- 停車後は、勝手に行動せず、乗務員のアナウンスに従って落ち着いた行動をとる。



山やがけ付近

- 揺れを感じたら、できるだけ遠くに離れ、平らで安全な場所へ避難する。
- 余震により土砂崩れが発生したり、緩んだ地盤が降雨で土砂崩れを起こすこともあるため、安全が確認されるまで、山やがけには近づかない。



車の運転中

- ハンドルをしっかり握り、少しずつスピードを落として道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れが収まるまで車外に出ず、カーラジオで情報を確認する。
- 道路に駐車した場合、車を離れるときは窓を閉め、キーをつけたままにする。ドアロックもしない。
- 車内にある車検証や、貴重品などを持ち出す。

